

(第2回 午前)

2022(令和4)年度適性検査問題

適性検査Ⅰ

(実施時間：45分)

《注 意》

- (1) 問題は 1 のみです。
- (2) 解答はすべて解答用紙に書いてください。
- (3) 受験番号、氏名を忘れずに書いてください。
- (4) 解答用紙のみ回収します。

城西大学附属
城西中学校

1

文章Ⅰと文章Ⅱを読んで、後の問いに答えなさい。

文章Ⅰ

わたしたちの周りは一見、なにもかもがどんどん悪くなっているように見える。そんなときに、どうすれば実は物事が良くなっていることに気づけるのだろう。

まず考えられるのは、「悪いニュースを相殺^{※1}すべく、良いニュースを積極的に見る」という方法だ。しかし、これは良い案とは言えない。^① いままでとは真逆^{かんちが}の勘違いを生んでしまうだけだ。「糖分を摂り過ぎたから、次はたくさん塩分を摂ろう」と言っているようなものだ。いい気分にはなるかもしれないが、健全とは言えない。ではどうすればいいのか。

わたしは、頭の中に「悪い」と「良くなっている」という2つの考え方を同時に持つようにしている。

何かが「良くなっている」と聞くと、「大丈夫だから、心配しないで」とか「目をそらしてもいい」と言われている気になる。しかし、わたしは「世界は良くなっている」とは言っているが、「世界について心配する必要はない」と言っていない。もちろん、「世界の大問題に、目を向ける必要はない」と言っているわけでもない。「悪い」と「良くなっている」は両立する。世界は、保育器で育つ^{※2}早産児のようなものだ。保育器では、危険な状況にある赤ちゃんを救うべく、呼吸や心拍数^{しんぱくすう}など重要な数値が常に計測され、体調の変化にいち早く気づけるようになっていいる。

たとえばある赤ちゃんは、保育器に入ってから1週間経つ頃^{ころ}には、体調がだいぶ回復した。しかし、すべての数値が良くなっているとはいえ、いまだに危険な状態なので保育器から出ることはできない。

このような場合、「赤ちゃんの状態は良くなっている」と言うのは正しいだろうか？ もちろん正しいに決まっている。では、「赤ちゃんの状態は悪い」と言うのは正しいだろうか？ もちろんこちらも正しい。

「状況は良くなっている」と言うのと、「万事オーライ、心配ご無用」と言うのは同じ意味だ

ろうか？ もちろん同じわけがない。「悪い」と「良くなっている」の、どちらかひとつを選ぶべきだろうか？ もちろんそんなことはない。両方選べばいい。

世界のいまを理解するには、「悪い」と「良くなっている」が両立することを忘れないようにしよう。

※₃ ネガティブ本能を抑える方法はほかにもある。そのひとつは、悪いニュースのほうが広まりやすいと気づくことだ。

メディアや活動家は、あなたに気づいてもらうために、ドラマチックな話を伝えようとする。そして悪いニュースのほうが、良いニュースや普通のニュースよりもドラマチックになりがちだ。また、なんらかの数字が長期的には伸びていても、短期的に落ち込むことがあった場合、それを利用して「危機が迫っている」という筋書きを立てるのはたやすい。

世界はオープンになり、人々はネットでつながり、報道の質も上がった。悪いニュースは、以前よりずっと広まりやすくなった。

悲惨なニュースを見たときは、自分にこう尋ねてみよう。

「このニュースと同じくらい強烈な『②』話があったとしたら、それはニュースになっていただろうか？　さまざまな大きな進歩のニュースは、はたして自分の耳に入ってくるだろうか？　溺れなかった子供がニュースになるだろうか？　溺れる子供の数や、結核で亡くなる人の数が減っていることに、窓の外を見て気づけるだろうか？　ニュースを読んだり、慈善団体のパンフレットを見たりして気づけるだろうか？」

良い変化のほうが悪い変化より多かったとしても、良い変化はあなたの耳には入ってこない。あなたが探すしかない。統計を見れば、良い変化がそこらじゅうにあることに気づけるだろう。

（ハンス・ロスリング『ファクトフルネス』）

- ※1 相殺：　　お互いに損得をなくすよう差し引くこと。
- ※2 早産児：　　予定より早く生まれた赤ちゃんのこと。
- ※3 ネガティブ：　　否定的、消極的であること。
- ※4 統計：　　その集団の性質などを、数字を用いて明らかにすること。

文章Ⅱ

ネットメディアが行き渡^{わた}って、ぼくらを取り巻^まく環境^{かんきよう}はずいぶん変わってきている。中でもソーシャルメディアが広まるとともに、誰^{だれ}でも世界に向けて情報^{じようほう}や意見を発信できるようになった。

プロのジャーナリスト^{※2}ではない一般^{いっぱん}の市民（きみたちのことだ）^{※3}がジャーナリズムに参加するようになっている。その一番^{やくわり}の役割は一次情報の発信だろう。ツイッターなどで発信された情報が話題になり、マスコミがそれを取材するというパターンだ。

マスメディアでは手の届^{とど}かないようなところにニュースはたくさんある。そうした専門情報^{せんもんけい}、地域情報^{ちいき}などを市民が発信すると、それをマスコミが取材して、ウラを取り、より広く報^{ちいき}じる。

共同通信ではD（デジタル）ウォッチ担当^{たんとう}という係を置くようになった。ツイッターなどソーシャルメディアをウォッチしてニュースを拾っている。

ではそれ以上にくわしい情報発信^{じようほうはう}についてはどうだろうか？

職業^{しよくぎよう}としてのジャーナリストではなく、普段^{ふだん}は別の仕事をしながら、ネットのニュースサイト^{※4}に情報発信をする人を「市民ジャーナリスト^③」と呼ぶ。

全国に散らばる、スマホを持った市民のネットワークを作ったら、記者の数が何倍にもなっていたくさんの情報がいっぱい集まるようにならないだろうか。市民ジャーナリストが1万人集まれば、集まる情報も膨大^{ほうだい}になる――。

実際^{じつさい}に、そういう発想から市民のネットワーク作りに取り組んでいるメディアは世界にいくつかある。その一つが、中東のカタールという小国^{せいこく}にある衛星テレビ局「アルジャジーラ」だ。中東には、人びとが自由に発言したり議論^{ぎろん}したりできず、ジャーナリストの活動がおさえつけられている国が少なくない。時には、いろいろな理由をつけられて警察^{けいさつ}に逮捕^{たいは}される。

こうして職業^{しよくぎよう}的な記者やカメラマンが現場^{げんば}で自由に取材するのが難^{むずか}しいときに、市民ジャーナリストからの情報を積極^{せきごく}的に吸^すいあげて生かしてきたそうだ。フェイスブックなどを

使う発信者に情報を送ってくれるよう頼む一方で、彼らにジャーナリストとしての基本を教え、訓練もするのだ。(2013年7月14日朝日新聞)

アルジャジーラの幹部だったワダー・ファンフルさんによると、市民がジャーナリストとしての基礎知識と専門技能を身につけたことによって、編集者が情報源をチェックすれば十分機能するようになったという。

お隣の韓国には「オーマイニュース」という組織がある。常勤記者が70人いる以外に、市民記者が約8万人もいて、それらの記者の原稿を編集記者15人がチェックしてから発信しているという。(ニュースサイト「ハフィントンポスト日本版」2014年3月28日)

とは言っても、市民ジャーナリストがちよつとした訓練で記事が書けるようになるかという、そう簡単にはいかないのだ。

日本でも市民ジャーナリストを使って展開したオンライン・ニュースとして、日本版「オーマイニュース」などがあった。しかし、どれもうまくいかず、2010年前後にすべて退場している。

オーマイニュースの初代編集長だった鳥越俊太郎氏は、敗因について、日本では新聞やテレビに一定の信頼度があるため、ネットの影響力に限界があったといった説明をしている。

〔ハフィントンポスト日本版〕2014年3月8日

しかし、市民ジャーナリストによるオンライン・ニュースが根づかなかったのは、やはり記事執筆の難しさに根本原因があったのではないか。

☆

☆

☆

たとえば、目の前で火事や交通事故があったとしよう。

④それを報道機関に連絡したり、現場写真を撮って、簡単な文章をつけて、ネットにアップしたりするならできそうだと。

ニュースの基本要素5W1H「誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どのように」を押さえて送れば、最低限、記事になる。もつと言え「誰が、何をした」があれば速報は十分。

でも、事態がもっと複雑になると、特に、「なぜ」を説明するのはそう簡単ではない。

サッカーの日本代表が世界ランク格下の国に1対2で負けたとする。敗北の事実是谁でも報

道できる。でも日本代表がなぜ負けたかの納得のいく解説は、地道に日本代表チームや相手国を取材してきているプロのスポーツ記者にしか書けないだろう。

一つの分野について詳しい人がその分野について解説、論評を書くことはできる。実際に専門家たちはブログで積極的に意見表明をしている。しかし、自分の専門でないテーマの場合も、それを掘り下げて、全体像を見極め、独りよがりでない記事を書くとすると、長い経験が必要になってくる。

まず、報道する前に、書いたことが事実かどうかを確認しなければならない。第3章で強調した「ウラ取り」だ。しかし、事件の背景に「きつとこういうことがあるはずだ」と思っても、その根拠を探したり確認したりするのは、一般人にとってはかなりハードルが高い。調査能力にも限りがあるし、現場に行く交通費だってバカにならない。

また、だれでも自分の持っている考え方に判断が左右されがちなものだが、それではバランスのとれた報道にならない。たとえば人生につまずいて犯罪に走った人について、その人の生活の背景も調べずに「はじめに働こうとしなかったからだ」などと、一刀両断に切り捨てる記事を書いたらどうなるか？ 独断が過ぎれば炎上するにちがいない。

(三浦準司 『人間はだまされる』)

※1 ソーシャルメディア： SNSや動画投稿サイトなど、オンライン上で送受信されるメディアのこと。

※2 ジャーナリスト： 新聞や雑誌などの編集者、記者のこと。

※3 ジャーナリズム： 新聞や雑誌などで時事的な問題の報道を行うこと。

※4 ウラを取る： 情報の真偽を確かめること。

※5 フェイスブック： SNSの一種。誰でも写真などを投稿することができる。

※6 常勤： 毎日、決められた時間で仕事をする事。

※7 世界ランク： 世界の国々における、サッカーの技術力のランキングのこと。

※8 独断： 確かな根拠がないまま、自分で判断を下すこと。

問題

問一 ― 部①「いままでとは真逆の勘違い」とありますが、それはどのようなことですか。

次のア～エの中からもつともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の身のまわりから得た情報だけを信じて、世界全体の状況が悪くなっていると思
い込んでしまうこと。

イ 状況が悪くなっている部分があるのにも関わらず、世界の状況は常に良くなっている
と思ってしまうこと。

ウ 悪いニュースを見た時に、すぐに心配するのではなく「これは誰かにとっては良い
ニュースかもしれない」と考えてみること。

エ ネット上から情報を得る時に、バランスを考えず、自分に都合がよい情報ばかりを検
索してしまうこと。

問二 ― ②にあてはまる言葉としてもつともふさわしいものを、次のア～エの中から一つ

選び、記号で答えなさい。

ア 悲しい イ 明るい ウ 面白い エ 驚くべき

問三 ― 部③「市民ジャーナリスト」とありますが、市民ジャーナリストの発信する情報
を活用している具体例として挙げられている組織の名前を、文章Ⅱから二つ、抜き出して
答えなさい。

問四 ― 部④「それを報道機関に連絡したり、現場写真を撮って、簡単な文章をつけて、
ネットにアップしたりする」とありますが、これと同じ意味で用いられている言葉を、

文章Ⅱの☆☆☆より前の部分から七字で抜き出して答えなさい。

問五 あなたは、一般市民が情報やニュースを取りあつかう時に、どのようなことに注意すべきだと考えますか。文章Ⅰと文章Ⅱ、それぞれの内容に関連付けて、四百字以上四百十字以内で書きなさい。ただし、次の条件と【きまり】にしたがうこと。

条件 次の三段落構成にすること。

- ① 第一段落で文章Ⅰと文章Ⅱ、それぞれの内容に触れること。
- ② 第二段落には、文章Ⅰの内容をふまえ、情報の受信者として注意すべきだと思うことを書くこと。
- ③ 第三段落には、文章Ⅱの内容をふまえ、情報の発信者として注意すべきだと思うことを、自身の経験と結び付けて書くこと。

【きまり】

- ・ 題名は書きません。
- ・ 最初の行から書き始めます。
- ・ 各段落の最初の字は一字下げて書きます。だんらく
- ・ 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。会話を入れる場合は、行をかえてはいけません。
- ・ “、” や “ ” や “ ” などそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の文字と通じます目に書きます。（ます目の下に書いてもかまいません。）
- ・ “ ” と “ ” が続く場合には、通じます目に書いてもかまいません。この場合、“ ” で一字と数えます。
- ・ 段落をかえたときの残りのます目は、字数として数えます。
- ・ 最後の段落の残りのます目は、字数として数えません。